

見 堂 々 と



少年の主張大会

「少年の主張」甘楽町大会が七月二十五日、公民館で開催され、最優秀賞に浅香友紀さん(三中三年)、優秀賞に松本ゆきえさん(一中三年)、吉沢小百合さん(二中三年)が選ばれました。

大会には、町内三中学校から選ばれた代表十二人が出場し、一人五分間の持ち時間に、日ごろ考えていることや希望、提言などを堂々と発表。明りょうな口調で語る主張に、審査員や観客たちも感心しながら聴き入っていました。

なお、最優秀賞の浅香さんは、八月七日に西部教育事務所で行われた西部地区大会に町代表として出場しました。

最優秀賞



浅香友紀さん
三中三年

心の中の

「天使」と「悪魔」

今までの私は、「いじめ」に對して、こう考えていました。「いじめなんて問題は、いじめられる側にも、何らかの原因があるから起こるのだ」と。

しかし、いじめに関する一冊の本が、その考え方は大きく間違っていることを教えてくれたのです。それは「やがて、春」という物語です。映画化もされたので、御存知の方も多いかと思えます。それには、いじめに打ち勝とうとする少年少女の姿が、はっきりと描かれています。読み終えたとき、私の目には涙があふれていました。いじめられる人が、どんなに辛い思いをしているのかが、痛い程よく分かった。と同時に

に、私の今までの「いじめ」に対する考え方が、本当に情けないものであったので、自分が恥ずかしくなつたからです。いじめが原因で自殺する。こんなニュースを聞くことが度々あります。もう、これは人権問題です。とても悲しいことです。二人を事件が起こる前に、「ねえ、どうしたの？」などと、「世話をかけてあげろ人がなぞ、いなかっただけでしょうが。いじめられる立場にある人は

講評



滝上昭雄教育長

甲乙つけがたい内容

各学校の代表にふさわしい、甲乙つけがたい立派な発表でした。少し厳しく評価するならば

ば、目の位置、発音、間のとり方など、発表態度に研究課題があるように思われました。また、一番主張したいという「山場」の設定が欠けていたことが残念。中学生らしい新鮮な主張をぜひ望みます。体験を積み重ねて発表した内容については、人の気持ちを引き寄せる大変さ、少しのものがありました。残念なことは、男子生徒が少ないことでした。次回からは、男子生徒の奮起を期待します。

佳作



山田 春香さん
一中一年

「ね」から教えられたこと

佳作



茂原 美穂さん
二中三年

「あいさつの大切さ」

佳作



根岸めぐみさん
一中二年

「新聞配達と私」

佳作



浅香いづみさん
二中三年

「あいさつの効用」